



Atty. Dkt. No. 086142-0532

0500

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

#2

Applicant: Masahiro HASEBE
Title: AIR BAG
Appl. No.: 10/064,707
Filing Date: 08/08/2002
Examiner: Unassigned
Art Unit: Unassigned

CLAIM FOR CONVENTION PRIORITY

Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Sir:

The benefit of the filing date of the following prior foreign application filed in the following foreign country is hereby requested, and the right of priority provided in 35 U.S.C. § 119 is hereby claimed.

In support of this claim, filed herewith is a certified copy of said original foreign application:

- JAPANESE Patent Application No. 2001-244019 filed 08/10/2001.

Respectfully submitted,

Date 8/9/2002

By Howard N. Shipley

FOLEY & LARDNER
Customer Number: 22428



22428

PATENT TRADEMARK OFFICE

Telephone: (202) 672-5490
Facsimile: (202) 672-5399

Howard N. Shipley
Attorney for Applicant
Registration No. 39,370



日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2001年 8月10日

出 願 番 号

Application Number:

特願2001-244019

[ST.10/C]:

[JP2001-244019]

出 願 人

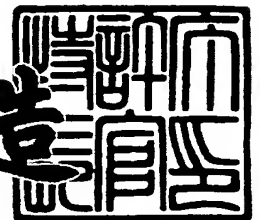
Applicant(s):

タカタ株式会社

2002年 4月23日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2002-3030196

【書類名】 特許願

【整理番号】 P-10059

【あて先】 特許庁長官殿

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都港区六本木1丁目4番30号 タカタ株式会社内

 【氏名】 長谷部 雅広

【特許出願人】

 【識別番号】 000108591

 【氏名又は名称】 タカタ株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100086911

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 重野 剛

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 004787

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 エアバッグ

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 後部にガス導入口を有したエアバッグであって、前面部と該後部とを連結する連結片が該エアバッグ内に配置されているエアバッグにおいて

該エアバッグは、該ガス導入口を有したリアパネルと、該前面部を構成するよう結合された複数枚のフロントパネルとによって外殻が構成されており、一部の該フロントパネルからエアバッグ内部に延長片が延出されており、該延長片とエアバッグ後部とがミッドパネルによって連結され、該延長片とミッドパネルとによって前記連結片が構成されていることを特徴とするエアバッグ。

【請求項 2】 請求項 1 において、前記フロントパネルは、フロントアッパーパネルとフロントロワーパネルとからなり、

該フロントアッパーパネル及びフロントロワーパネルの一方は、本体部と該本体部に一体の前記延長片とからなるものであり、

該本体部と延長片との境界部に対しフロントアッパーパネル及びフロントロワーパネルの他方の辺部が結合されていることを特徴とするエアバッグ。

【請求項 3】 請求項 2 において、該延長片にガス流通用の開口が設けられていることを特徴とするエアバッグ。

【請求項 4】 請求項 2 又は 3 において、該境界部と該他方の辺部との結合部分がエアバッグの内側に配置されていることを特徴とするエアバッグ。

【請求項 5】 請求項 2 ないし 4 のいずれか 1 項において、フロントアッパーパネルの上辺側のトップ部及び両側辺のサイド部と、フロントロワーパネルの両側辺のサイド部とがエアバッグの側面側に回り込んでおり、

該フロントアッパーパネルのトップ部がエアバッグの上面部において前記リアパネルに結合されており、

該フロントアッパーパネルのサイド部とフロントロワーパネルのサイド部とが、エアバッグの側面において前記リアパネルに結合されており、

フロントロウパネルの下辺部がエアバッグの下部において前記リアパネルに結合されていることを特徴とするエアバッグ。

【請求項 6】 請求項 5 において、該フロントアッパーパネルとリアパネルとの結合部分、及び該フロントロウパネルとリアパネルとの結合部分は、いずれも、エアバッグの内部に配置されていることを特徴とするエアバッグ。

【請求項 7】 請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 項において、前記結合は縫合であり、リアパネルの縫い残り部分からエアバッグが反転されていることを特徴とするエアバッグ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、自動車等の乗員を保護するためのエアバッグに関するものであり、例えば助手席用エアバッグとして好適に用いられるエアバッグに関する。詳しくは、エアバッグ内の後部と前面部とを連結片によって連結したエアバッグに関する。

【0002】

【従来の技術】

助手席用エアバッグ内に、エアバッグ後部とエアバッグ前面部とを連結する連結片を配置することがある（特開平 1 0 - 3 1 5 8 9 2 号公報）。同号公報のエアバッグにあっては、連結片（同号公報ではテザーと称している。）の後端がエアバッグのガス流入口の周縁に縫合され、連結片の前端がエアバッグ前面部に縫合されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

上記従来の如く、連結片（テザー）の前端をエアバッグ前面部に縫合した場合、この縫合の縫目がエアバッグ前面部に露出することになり、エアバッグ前面部の平滑性が損なわれる。

【0004】

本発明は、エアバッグ後部とエアバッグ前面部とを連結する連結片を有するエ

エアバッグにおいて、エアバッグ前面部の外面を平滑なものとするを目的とする。

【0005】

また、本発明は、縫合等の結合が容易なエアバッグを提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

本発明のエアバッグは、後部にガス導入口を有したエアバッグであって、前面部と該後部とを連結する連結片が該エアバッグ内に配置されているエアバッグにおいて、該エアバッグは、該ガス導入口を有したリアパネルと、該前面部を構成するように結合された複数枚のフロントパネルとによって外殻が構成されており、一部の該フロントパネルからエアバッグ内部に延長片が延出されており、該延長片とエアバッグ後部とがミッドパネルによって連結され、該延長片とミッドパネルとによって前記連結片が構成されていることを特徴とするものである。

【0007】

かかるエアバッグにあっては、連結片は、ミッドパネルと延長片とからなり、この延長片はフロントパネルから延出しているため、ミッドパネルと延長片との連結部分はエアバッグ前面部から離隔しており、エアバッグ前面部には全く露出しない。そのため、エアバッグ前面部（外面）は平滑である。なお、複数枚のフロントパネル同士の連結部分は、少なくともエアバッグ前面部ではエアバッグ内部に配置されていることが好ましい。

【0008】

本発明では、フロントパネルは、フロントアッパーパネルとフロントローパネルとからなり、該フロントアッパーパネル及びフロントローパネルの一方は、本体部と該本体部に一体の前記延長片とからなるものであり、該本体部と延長片との境界部に対しフロントアッパーパネル及びフロントローパネルの他方の辺部が結合されていることが好ましい。このように2枚のフロントパネルを用いる場合、枚数が必要最小限であり、縫合コストも低い。

【0009】

この延長片に開口を設けることにより、エアバッグ内部の延長片の両側の室同士が連通される。

【0010】

この境界部に対しフロントアップパネル及びフロントローパネルの他方を結合することにより、延長片がエアバッグ内部に延出する。この結合部分をエアバッグ内側とすることにより、結合部分からエアバッグ前面部の外面に露出しない。

【0011】

この場合、フロントアップパネルの上辺側のトップ部及び両側辺のサイド部と、フロントローパネルの両側辺のサイド部とがエアバッグの側面側に回り込んでおり、該フロントアップパネルのトップ部がエアバッグの上面部において前記リアパネルに結合されており、該フロントアップパネルのサイド部とフロントローパネルのサイド部とが、エアバッグの側面において前記リアパネルに結合されており、フロントローパネルの下辺部がエアバッグの下部において前記リアパネルに結合されている構成とし、リアパネルとフロントアップパネル及びフロントローパネルとの結合部分がエアバッグ前面部には配置されないようにするのが好ましい。

【0012】

本発明では、上記の結合を縫合により行うと共に、リアパネルの縫い残し部分よりエアバッグを反転させることにより、縫合部分をエアバッグ内部に配置してエアバッグ外面を平滑にすることが好ましい。

【0013】

【発明の実施の形態】

以下に図面を参照して本発明の実施の形態を詳細に説明する。

【0014】

第1図(a)は本発明の実施の形態に係る自動車の助手席用エアバッグの膨張状態における斜視図、第1図(b)は第1図(a)のB-B線に沿う断面図、第2図はこのエアバッグの分解斜視図、第3～10図はこのエアバッグの製作手順を示す一連の斜視図である。

【 0 0 1 5 】

この助手席用エアバッグ 1 は、フロントアッパーパネル 1 0 と、フロントローワーパネル 2 0 と、リアパネル 3 0 とによって外殻が構成され、内部にミッドパネル 4 0 が配置されている。

【 0 0 1 6 】

第 3, 4 図の通り、フロントアッパーパネル 1 0 は、本体部 1 1 と該本体部 1 1 の一辺から延出する延長片 1 2 とを有している。この本体部 1 1 の該一辺と対向する辺からはトップ部 1 3 が張り出し、該一辺に連なる両側辺からはサイド部 1 4, 1 5 が張り出している。サイド部 1 4, 1 5 とトップ部 1 3 との間は略 L 字形に切り欠かれた形状の切欠部 1 6, 1 7 となっている。この切欠部 1 6, 1 7 の辺縁は、トップ部 1 3 の側辺 1 3 a, 1 3 b と、サイド部 1 4, 1 5 の側辺 1 4 a, 1 5 a とからなる。1 3 c はトップ部 1 3 の先端辺を示す。

【 0 0 1 7 】

本体部 1 1 の幅は延長片 1 2 の幅よりも大きく、サイド部 1 4, 1 5 は延長片 1 2 よりも側方に張り出している。符号 1 4 b, 1 5 b はサイド部 1 4, 1 5 の下辺を示し、1 4 c, 1 5 c はサイド部 1 4, 1 5 の先端辺を示す。L₁ は該下辺 1 4 b, 1 5 b を結ぶ線分を示す。

【 0 0 1 8 】

1 2 a, 1 2 b は延長片 1 2 の側辺を示し、1 2 c は延長片 1 2 の下辺を示す。延長片 1 2 には開口 1 8 が設けられている。

【 0 0 1 9 】

フロントローワーパネル 2 0 は、上辺 2 0 a、下辺 2 0 b 及び 1 対の側辺 2 0 c, 2 0 d を有した台形形状のものである。上辺 2 0 a の長さは、本体部 1 1 の下端の幅寸法に合致する。

【 0 0 2 0 】

このフロントローワーパネル 2 0 の上辺 2 0 a がフロントアッパーパネル 1 0 の線分 L₁ 及びサイド部下辺 1 4 b, 1 5 b に重ね合わされ、縫合される。第 1 図 (b) の符号 2 5 はこの縫合のミシン目を示す。

【 0 0 2 1 】

第5図の通り、リアパネル30は、上辺30a、下辺30b及び1対の側辺30c、30dを有した略々台形状のものである。上辺30aの中央部には方形の切込部31が設けられている。31a、31bは上辺30aに略直角に交わる切込部側辺を示す。31cは、これらの切込部側辺31a、31b同士を結ぶ切込部底辺を示す。

【0022】

このリアパネル30には、この切込部31近傍にガス導入口32が設けられている。また、側辺30c、30dの近傍にそれぞれベントホール33が設けられている。このベントホール33の周囲には、円環状の補強布34が縫合されている。

【0023】

ミッドパネル40は、上辺40a、下辺40b及び1対の側辺40c、40dを有した略方形のものであり、前記ガス導入口32と同一大きさのガス導入口42を備えている。なお、このミッドパネルは防炎布よりなることが好ましい。

【0024】

リアパネル30とミッドパネル40とは、上辺30a、40aを平行にし、ガス導入口32、42同士が重なるように、且つミッドパネル40の下辺40b側がリアパネル30の下辺30b側となるように重ね合わされ、該ミッドパネル40の上辺40aと平行なミシン目45a又は45bによって縫合されている。このミシン目45a、45bは、ガス導入口32と切込部底辺31cとの間を上辺30a、40aと平行方向に延在している。

【0025】

第7～9図に明示の通り、フロントアップパネル10のサイド部上辺14aとトップ部側辺13aとが縫合されている。なお、符号46がこの縫合のミシン目を示す。

【0026】

サイド部上辺15aとトップ部側辺13bとが縫合されている。なお、符号47がこの縫合のミシン目を示す。

【0027】

リアパネル 3 0 は、切込部 3 1 の両側の上辺 3 0 a, 3 0 a 同士がミシン目 4 8 により縫合され、切込部側辺 3 1 a, 3 1 b と切込部底辺 3 1 c とがミシン目 4 9 (第 1 0 図 (b)) によって縫合されている。

【 0 0 2 8 】

フロントアップパネル 1 0 のトップ部 1 3 の先端辺 1 3 c とリアパネル 3 0 の側辺 3 0 c, 3 0 d の上部 (上辺 3 0 a の近傍部分。エアバッグの上面に配置される部分。) とがミシン目 5 0 (第 1 図 (b)、第 8, 9 図) によって縫合される。フロントアップパネル 1 0 のサイド部 1 4 の先端辺 1 4 c とリアパネル 3 0 の側辺 3 0 c とがミシン目 5 1 によって縫合されている。

【 0 0 2 9 】

フロントロワーパネル 2 0 の側辺 2 0 c がリアパネル 3 0 の側辺 3 0 c とミシン目 5 2 (第 6 ~ 9 図) によって縫合されている。フロントアップパネル 1 0 のサイド部 1 5 の先端辺 1 5 c と側辺 3 0 d とがミシン目 5 3 (第 8 図) によって縫合されている。フロントロワーパネル 2 0 の側辺 2 0 d とリアパネル 3 0 の側辺 3 0 d とがミシン目 5 4 (第 6 図) によって縫合されている。

【 0 0 3 0 】

リアパネル 3 0 の下辺 3 0 b とフロントロワーパネル 2 0 の下辺 2 0 b とがミシン目 5 5 (第 1 図 (b)、第 6 ~ 9 図) によって縫合されている。

【 0 0 3 1 】

ミッドパネル 4 0 の下辺 4 0 b と延長片 1 2 の下辺 1 2 c とがミシン目 5 6 (第 1 図 (b)) によって縫合されている。

【 0 0 3 2 】

第 1 図の通り、エアバッグ 1 の後端部の縫合のミシン目 4 9 を除いて、他の縫合のミシン目 4 6 ~ 4 8, 5 0 ~ 5 5 はいずれもエアバッグ 1 の内側に配置されている。このため、このエアバッグ 1 の前面部及び両側面はミシン目が露出せず、平滑である。

【 0 0 3 3 】

第 1 図の通り、このエアバッグ 1 のガス導入口 3 2, 4 2 がコンテナ 6 0 に連結される。このコンテナ 6 0 にはインフレーター 6 1 が設けられている。エアバ

グ 1 は折り畳まれてコンテナ 6 0 内に収容され、リッド（図示略）が被装される。第 1 図の通り、ミッドパネル 4 0 とフロントアッパーパネル 1 0 の延長片 1 2 よりなる連結片 4 の幅は、エアバッグ 1 が展開したときのエアバッグ本体の幅と略等しいか、それより大きくなるように形成されている。

【 0 0 3 4 】

インフレーター 6 1 が作動すると、その噴出ガスによってエアバッグ 1 がリッドを押し開けながら膨張する。エアバッグ 1 は、ミッドパネル 4 0 及び延長片 1 2 よりなる連結片 4 の上側の室 2 がまず膨張し、次いでガスが開口 1 8 を通って下側の室 3 に流入して該室 3 を膨張させる。

【 0 0 3 5 】

エアバッグ 1 の前面部と後部とは連結片 4 によって連結されているので、エアバッグ 1 の前面部が過度に乗員に向かって突き出すことがない。このエアバッグ 1 に乗員が突っ込んできた場合、ガスは、下側の室 3 側に配置されているベントホール 3 3 から流出し、衝撃が吸収される。

【 0 0 3 6 】

次に、このエアバッグ 1 の縫製手順について説明する。

【 0 0 3 7 】

まず、第 3, 4 図の通り、フロントアッパーパネル 1 0 とフロントロワーパネル 2 0 とをミシン目 2 5 によって縫合しておく。また、第 5 図の通り、リアパネル 3 0 とミッドパネル 4 0 とをミシン目 4 5 a, 4 5 b によって縫合しておく。

【 0 0 3 8 】

次に、第 6 図の如く、フロントアッパーパネル 1 0 及びフロントロワーパネル 2 0 の結合体よりなるフロントパネルと、リアパネル 3 0 とを、それらの外側面（エアバッグ製品となった場合の外側面）同士を対面させて重ね合わせ、フロントロワーパネル 2 0 とリアパネル 3 0 とをミシン目 5 2, 5 4, 5 5 によって縫合する。

【 0 0 3 9 】

次に、第 7 図（a）の通り、フロントアッパーパネル 1 0 の切欠部 1 6, 1 7 の 1 対の直交する側辺 1 3 a, 1 4 a 及び 1 3 b, 1 5 a を重ね合わせ、第 7 図

(b) の通りミシン目 4 6, 4 7 で縫合する。また、リアパネル 3 0 の上辺 3 0 a, 3 0 a を重ね合わせ、ミシン目 4 8 で縫合する。

【 0 0 4 0 】

次いで、第 8 図の通り、フロントアップーパーパネル 1 0 とリアパネル 3 0 とをミシン目 5 0, 5 1, 5 3 によって縫合する。さらに、第 9 図の通り、ミッドパネル 4 0 の下辺 4 0 b と延長片 1 2 の下辺 1 2 c とをミシン目 5 6 によって縫合する。

【 0 0 4 1 】

これによって、エアバッグが裏返し状にて縫製された状態となる。この状態では、切込部側辺 3 1 a, 3 1 b と切込部底辺 3 1 c とは縫合されておらず、開放状態となっている。そこで、第 9 図の通り、この開放部分を通してエアバッグを反転させる。これにより、第 1 0 図 (a) の状態となる。そこで、この開放部分の切込部側辺 3 1 a, 3 1 b を切込部底辺 3 1 c に対しミシン目 4 9 により縫合する。これによりエアバッグが完成する。

【 0 0 4 2 】

上記実施の形態では、フロントアップーパーパネル 1 0 に延長片 1 2 が設けられているが、第 1 1 図のように、フロントロワーパネル 2 0 A に延長片 7 0 を設け、フロントアップーパーパネル 1 0 A には延長片を設けない構成としてもよい。

【 0 0 4 3 】

このフロントロワーパネル 2 0 A は、本体部 7 1 に対し延長片 7 0 が連なっている。本体部 7 1 の両側辺にはサイド部 7 2, 7 3 が張り出しており、その先端辺 7 2 b, 7 3 b がリアパネルに縫合される。サイド部 7 2, 7 3 の上辺 7 2 a, 7 3 a がフロントアップーパーパネル 1 0 A のサイド部 1 4, 1 5 の下辺 1 4 b, 1 5 b に縫合される。

【 0 0 4 4 】

延長片 7 0 は、1 対の側辺 7 0 a, 7 0 b と先端辺 7 0 c とを有した略方形のものであり、先端辺 7 0 c がミッドパネルに縫合される。延長片 7 0 には開口 7 4 が設けられている。フロントアップーパーパネル 1 0 A の下辺 1 1 a がフロントロワーパネル 2 0 A の線分 L₂ 部分に縫合される。この縫合のミシン目はエアバッ

グの内側に配置される。

【 0 0 4 5 】

本発明では、第 1 2 図 (a) , (b) のエアバッグ 1 A の如く、ミッドパネル 8 0 がコンテナ 6 0 よりも後端側から前方へ折り返される構成としてもよい。このミッドパネル 8 0 は防災布又は補強布よりなるものであり、基部 8 1 付近にガス導入口 8 2 が設けられている。このミッドパネル 8 0 は、このガス導入口 8 2 の周囲がミシン目 4 5 A によってリアパネル 3 0 に縫合されている。

【 0 0 4 6 】

ミッドパネル 8 0 は、1 対の長側辺 8 0 b , 8 0 d を有した帯状のものであり、その辺部 8 0 c がミシン目 5 6 A により延長片 1 2 の下辺 1 2 c に縫合されている。この実施の形態では、インフレーター 6 1 からのガスが防災布よりなるミッドパネル 8 0 に当たるようになり、リアパネル 3 0 の上面部には直接に当たらない。

【 0 0 4 7 】

上記実施の形態では、インフレーター 6 1 からのガスはミッドパネル 8 0 によって案内されてエアバッグ 1 A の下側の室 3 内に導入される。そのため、エアバッグ 1 A は、まず室 3 が膨張し、次いで、ガスが延長片 1 2 の開口 1 8 を通って上側の室 2 内に流入することにより、該室 2 が膨張する。この実施の形態では、エアバッグ本体に設けられるベントホール 3 3 は、リアパネル 3 0 の側面の上部寄りに、即ち室 2 側に配置するのが好ましい。

【 0 0 4 8 】

本発明では、第 1 3 図のように、ミッドパネル 4 0 と延長片 1 2 とを、それらの辺部 1 2 c , 4 0 b から少し離れた位置にてミシン目 5 6 B により縫合してもよい。このようにすると、ミッドパネル 4 0 と延長片 1 2 との合計の長さが短くなり、エアバッグ 1 B の前面部の中央が後部側 (エアバッグ内部側) に引っ込んだ構成となる。

【 0 0 4 9 】

本発明では、第 1 4 図のエアバッグ 1 C の通り、ベントホール 3 3 の周囲に環状の補強布 3 4 A を縫合すると共に、この補強布 3 4 A から延出した耳部 9 0

と延長片 1 2 とを縫合してもよい。このようにすると、エアバッグの膨張時の横幅方向への過大な膨らみ出しが規制される。

【 0 0 5 0 】

上記実施の形態はいずれも本発明の一例であり、本発明は図示の形態に限定されるものではない。本発明は、助手席用エアバッグ以外の各種エアバッグにも適用できる。

【 0 0 5 1 】

【発明の効果】

以上詳述した通り、本発明のエアバッグにあっては、エアバッグ後部とエアバッグ前面部とを連結する連結片が、エアバッグの複数枚のフロントパネルの一部からエアバッグ内に延出した延長片と、エアバッグ内に配置されたミッドパネルとを連結してなるものであり、エアバッグ前面部にこの連結片の結合部分が露出せず、しかも、複数枚のフロントパネルの連結部分もエアバッグ前面部ではエアバッグ内部に配置されているので、エアバッグ前面部の外面を著しく平滑なものとすることができる。

【 0 0 5 2 】

また、本発明によると、エアバッグ製作時の各パネルを縫合により結合する場合、すべて平面縫製となるため、縫製をきわめて容易に行うことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施の形態に係る自動車の助手席用エアバッグの斜視図及び断面図である。

【図 2】

第 1 図のエアバッグの分解斜視図である。

【図 3】

第 1 図のエアバッグの製作手順を示す斜視図である。

【図 4】

第 1 図のエアバッグの製作手順を示す斜視図である。

【図 5】

第 1 図のエアバッグの製作手順を示す斜視図である。

【図 6】

第 1 図のエアバッグの製作手順を示す斜視図である。

【図 7】

第 1 図のエアバッグの製作手順を示す斜視図である。

【図 8】

第 1 図のエアバッグの製作手順を示す斜視図である。

【図 9】

第 1 図のエアバッグの製作手順を示す斜視図である。

【図 1 0】

第 1 図のエアバッグの製作手順を示す斜視図である。

【図 1 1】

本発明の別の実施の形態に係るエアバッグの要部分解斜視図である。

【図 1 2】

本発明のさらに別の実施の形態に係るエアバッグの断面図及び要部分解斜視図である。

【図 1 3】

本発明の異なる実施の形態に係るエアバッグの断面図及び要部分解斜視図である。

【図 1 4】

本発明のさらに異なる実施の形態に係るエアバッグの斜視部分断面図である。

【符号の説明】

1, 1 A, 1 B, 1 C エアバッグ

2, 3 室

4 連結片

1 0, 1 0 A フロントアップパーパネル

1 1 本体部

1 2 延長片

1 3 トップ部

1 4, 1 5 サイド部

1 8 開口

2 0, 2 0 A フロントローパーパネル

3 0 リアパネル

3 2 ガス導入口

3 3 ベントホール

3 4, 3 4 A 補強布

4 0 ミッドパネル

4 2 ガス導入口

4 6, 4 7, 4 8, 4 9, 5 0, 5 1, 5 2, 5 3, 5 4, 5 5, 5 6, 5 6

A, 5 6 B ミシン目

6 0 コンテナ

6 1 インフレーター

7 0 延長片

7 1 本体部

7 2, 7 3 サイド部

8 0 ミッドパネル

8 1 基部

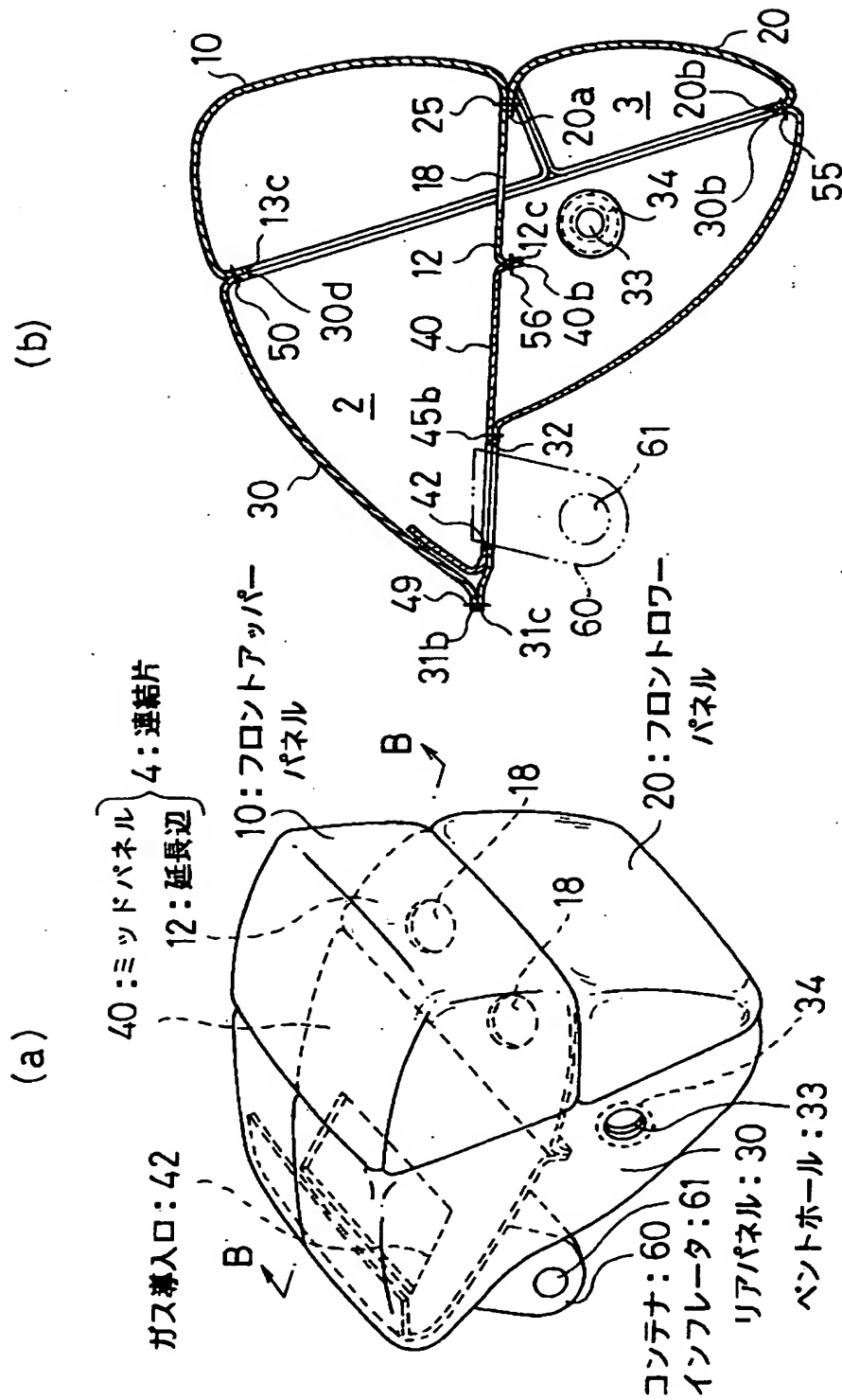
8 2 ガス導入口

9 0 耳部

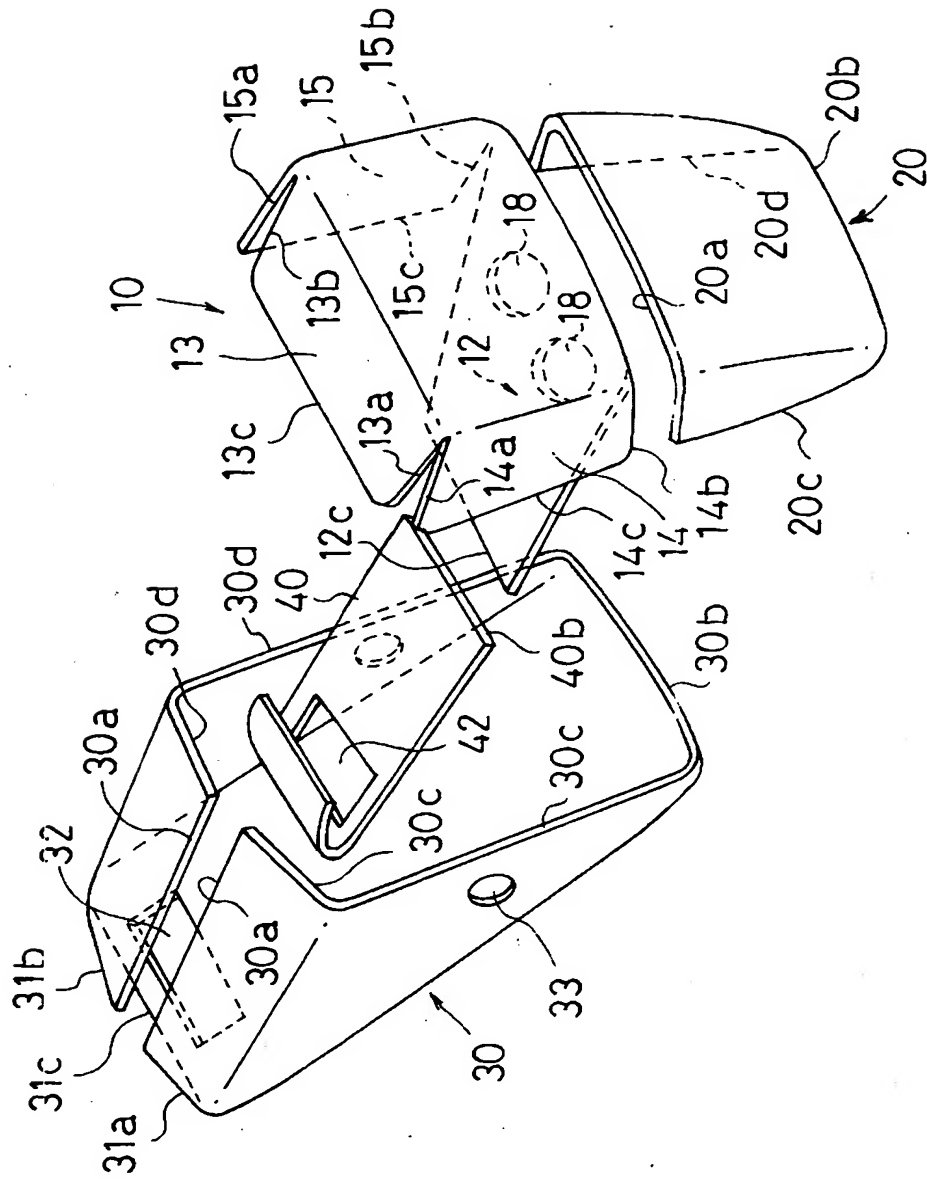
【書類名】 図面

【図1】

第1図



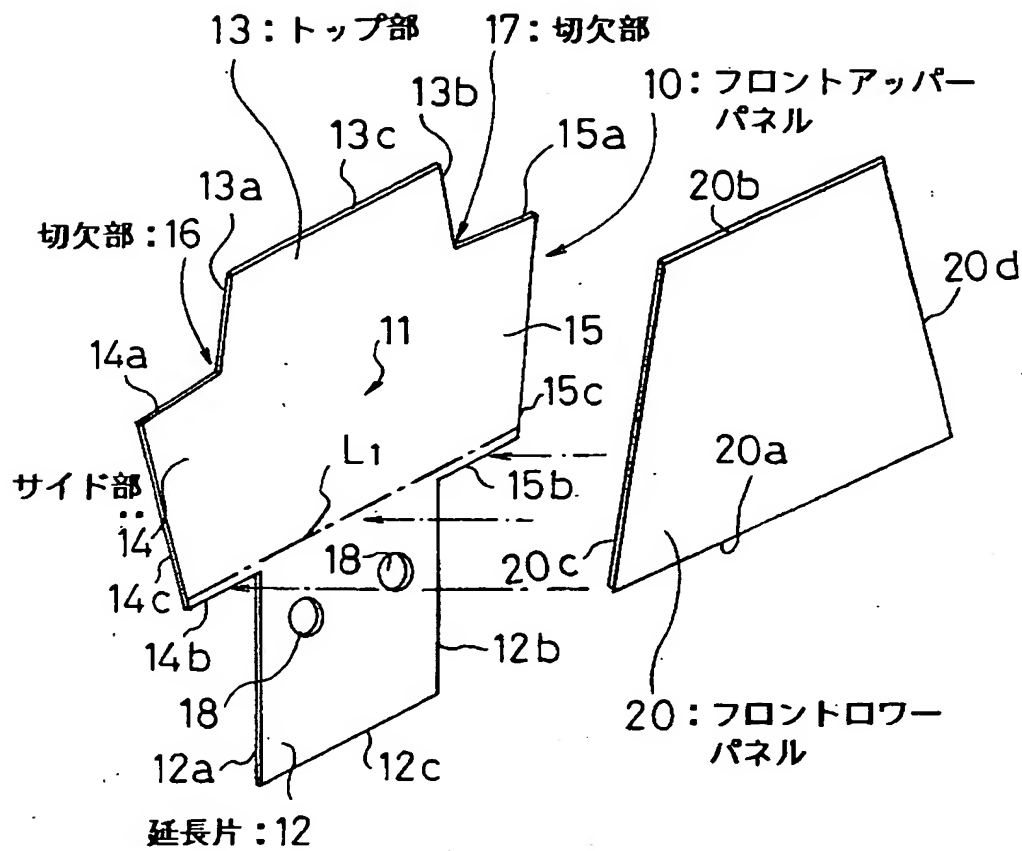
【図2】



第2図

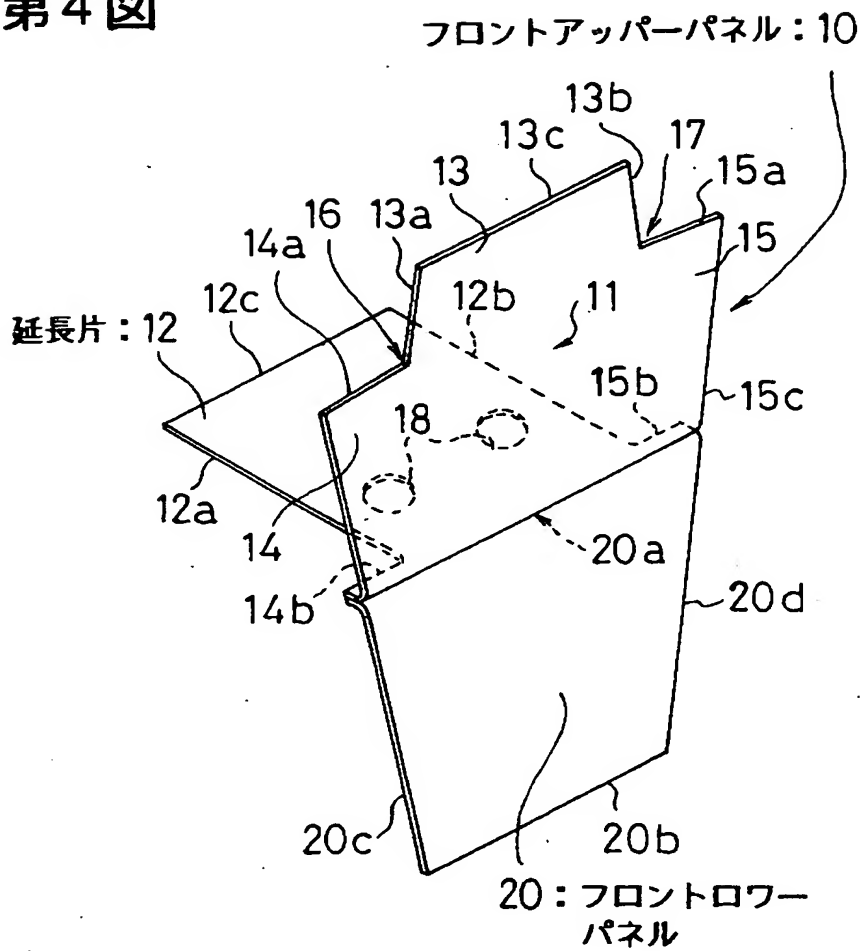
【図 3】

第 3 図



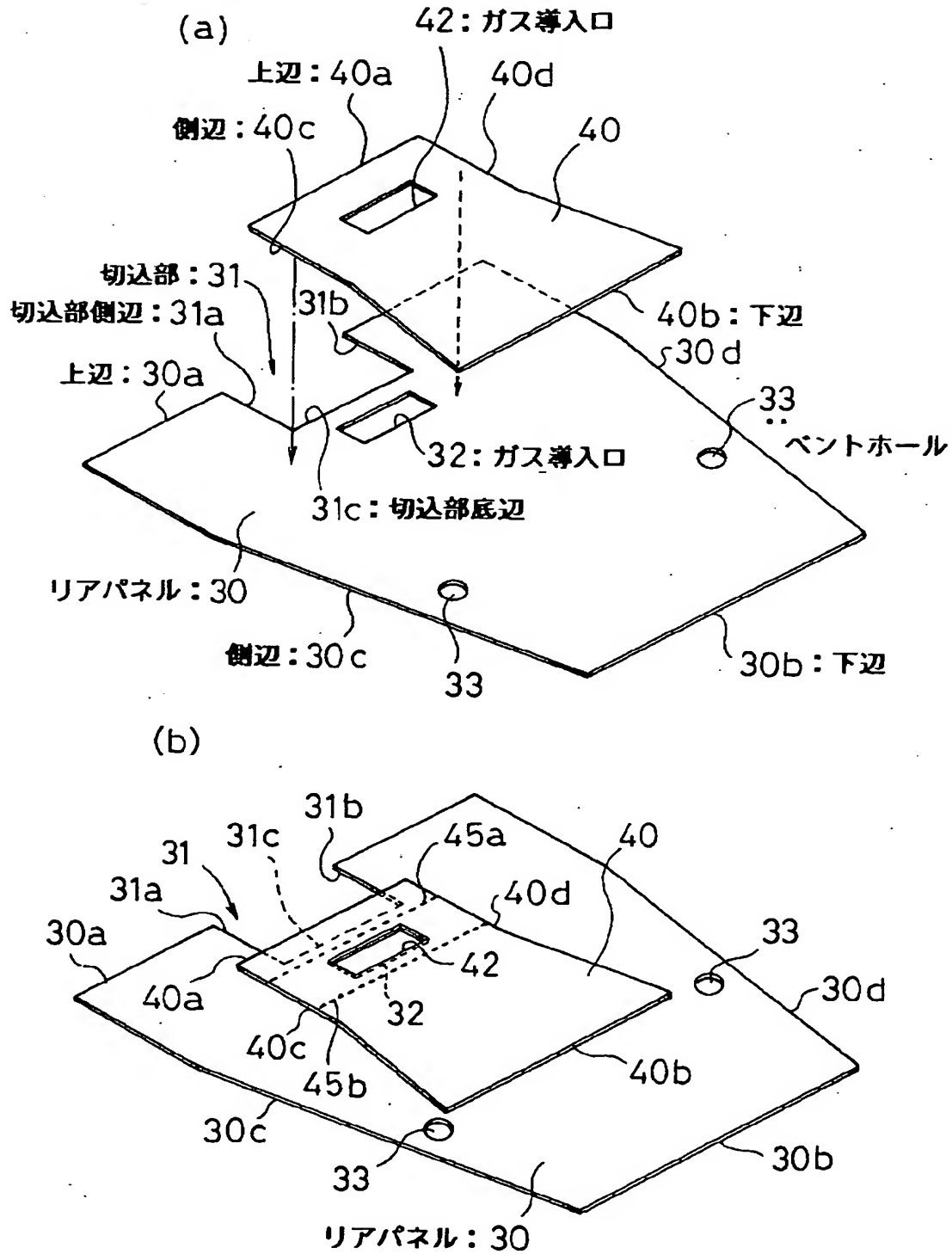
【図 4】

第 4 図



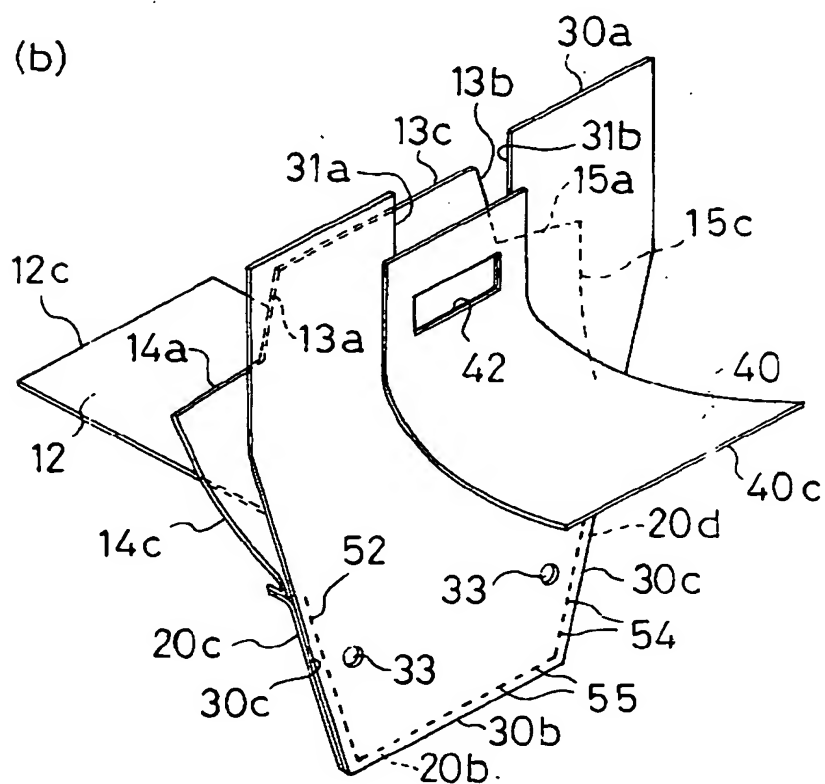
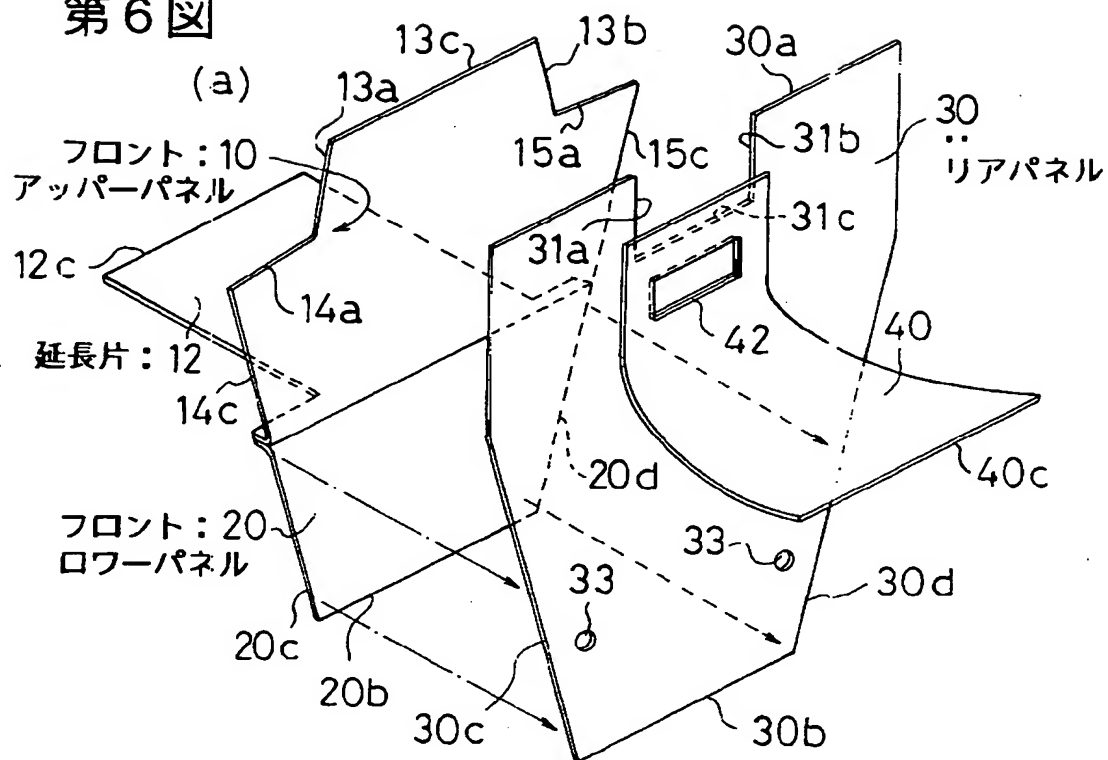
【図5】

第5図



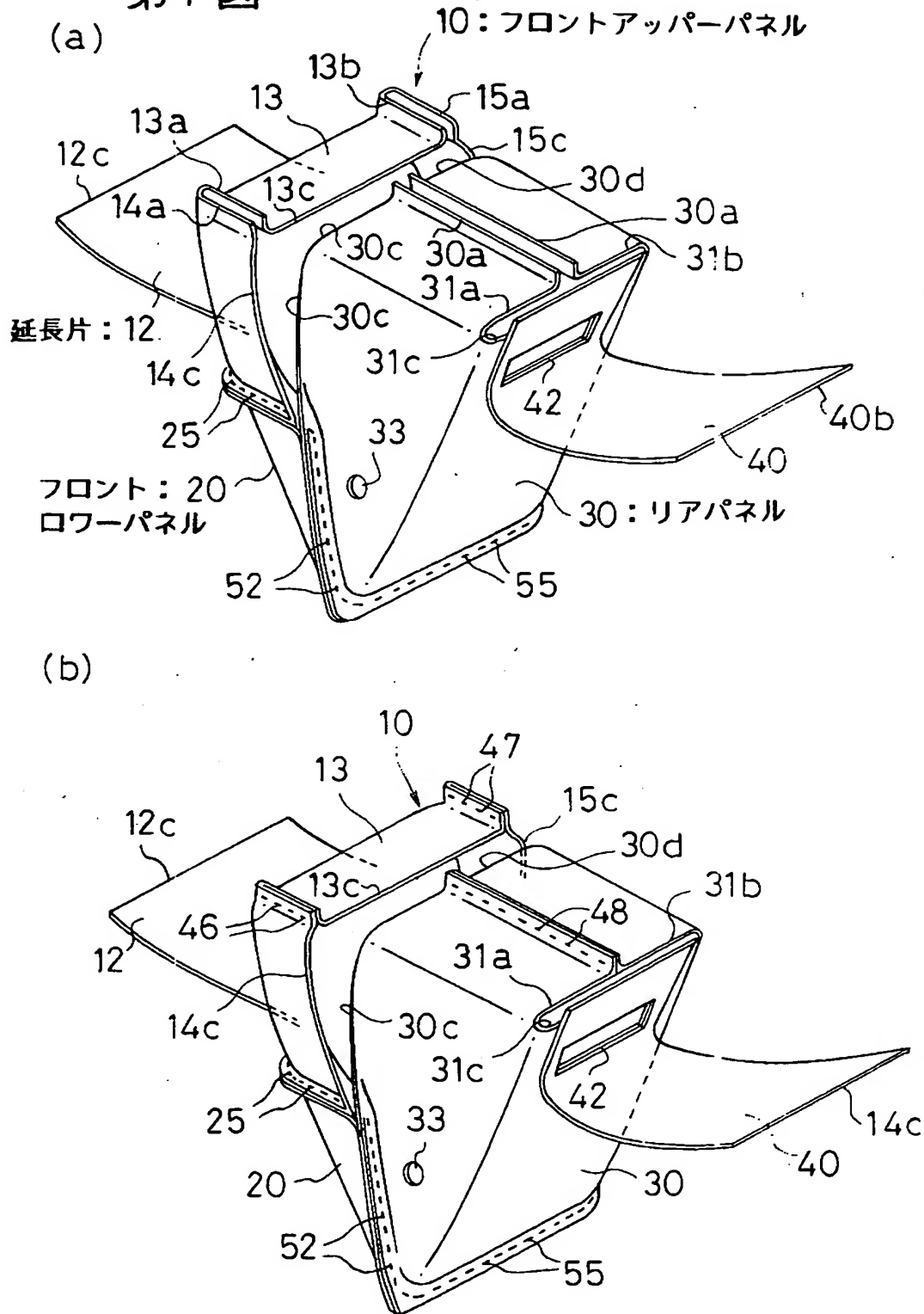
【図 6】

第 6 図

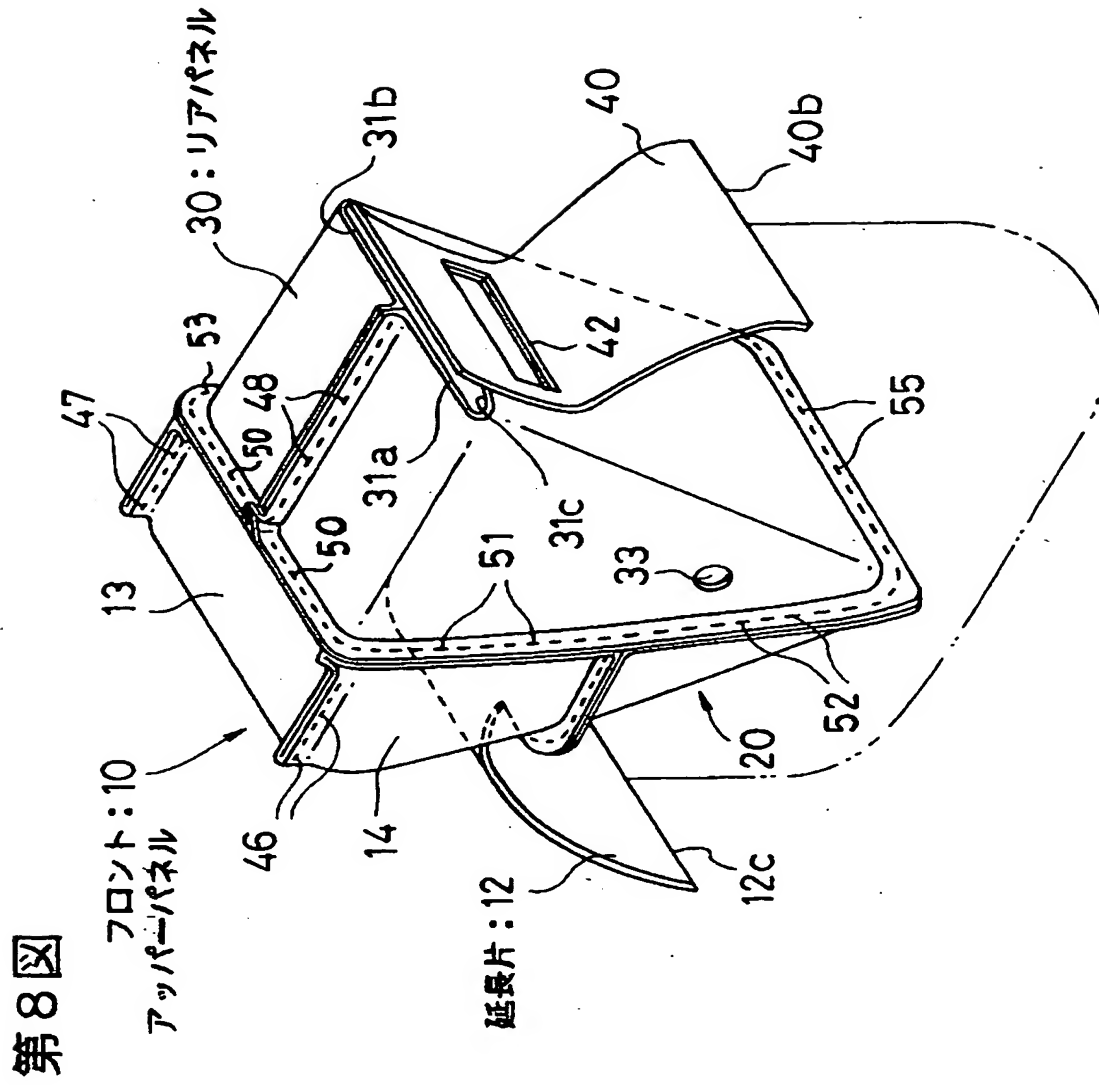


【図7】

第7図

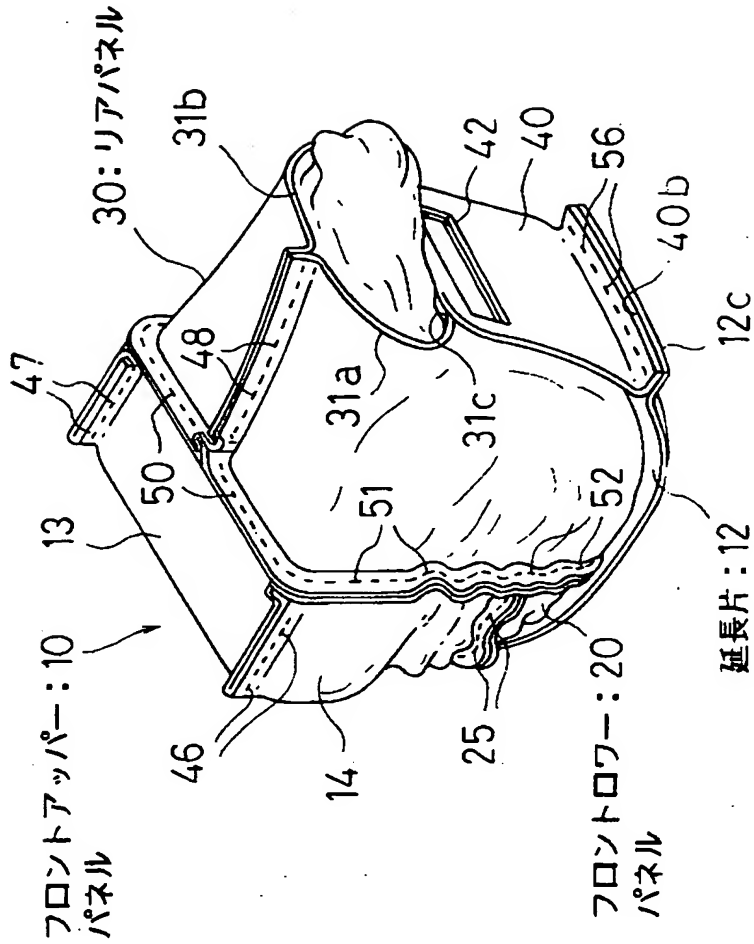


【図 8】



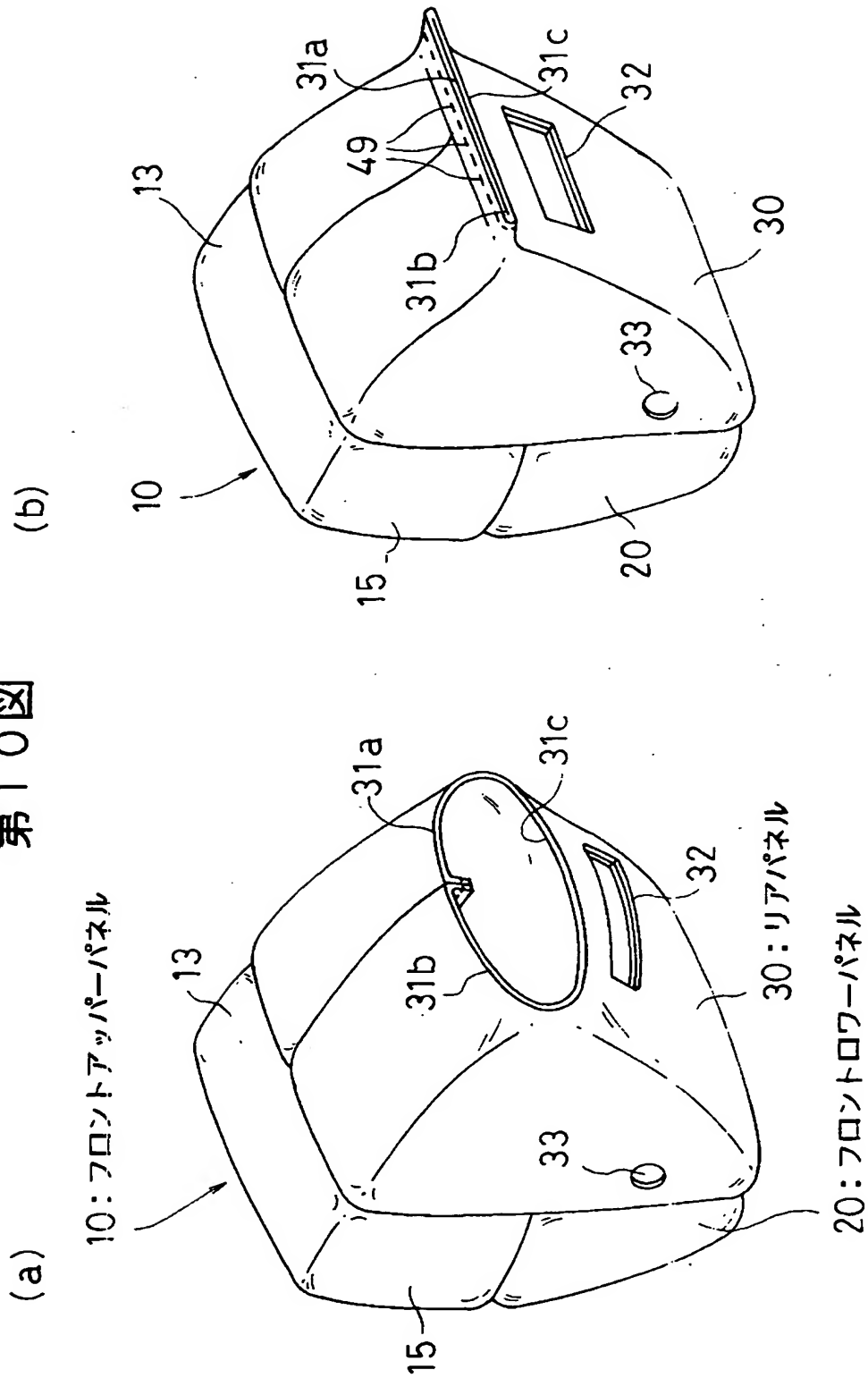
【図9】

第9図

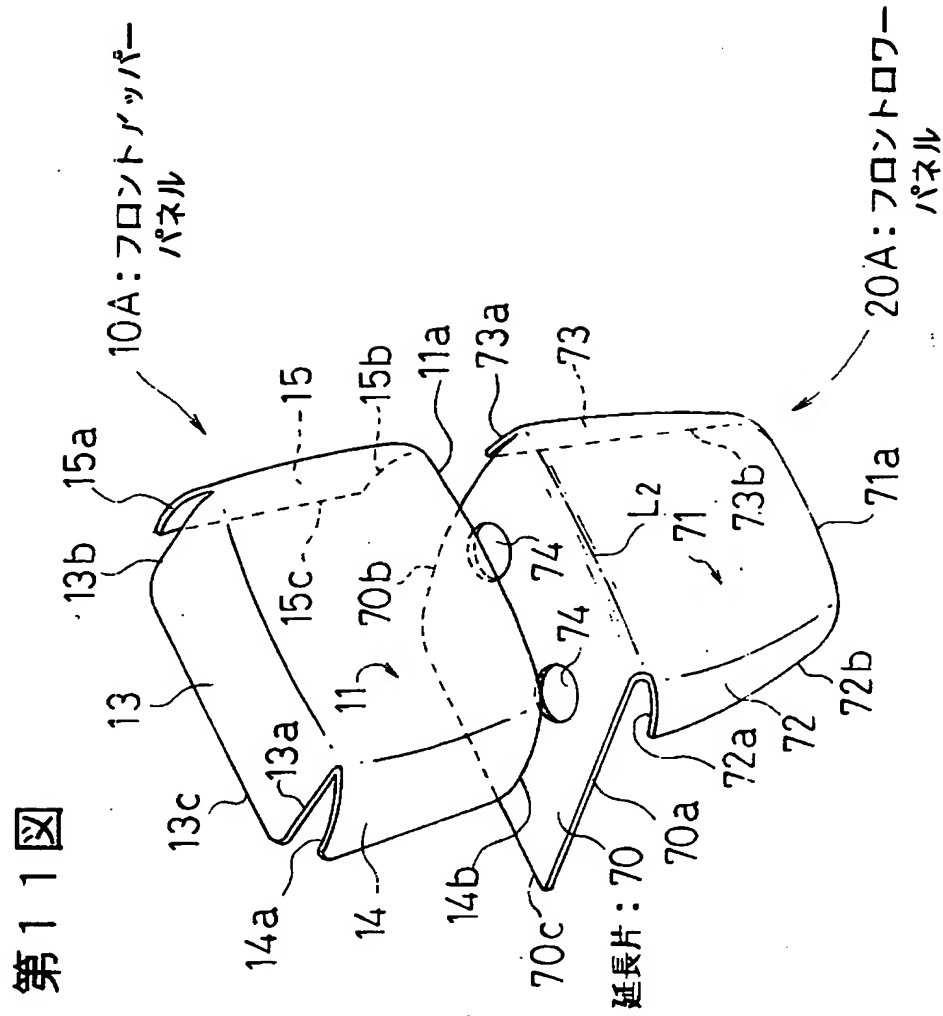


【図10】

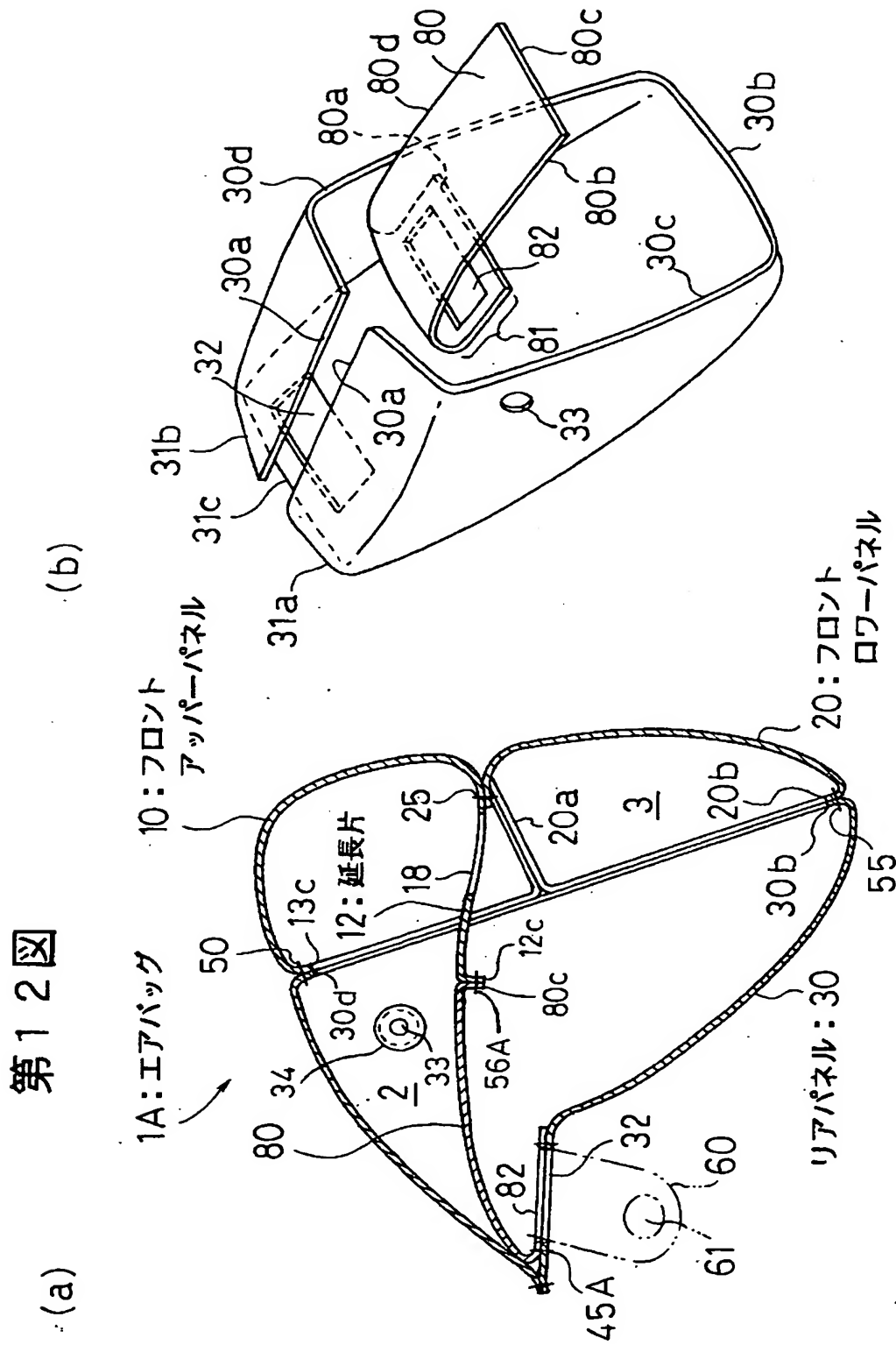
第10図



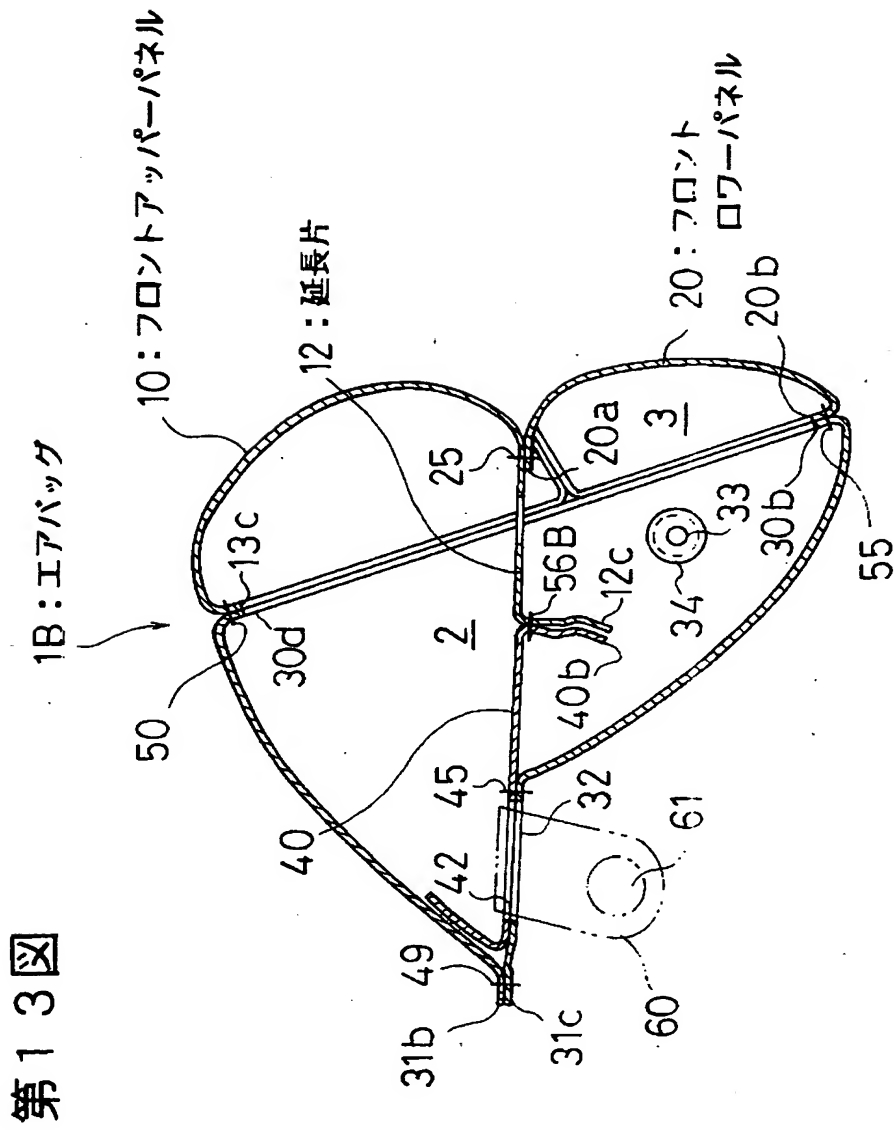
【図11】



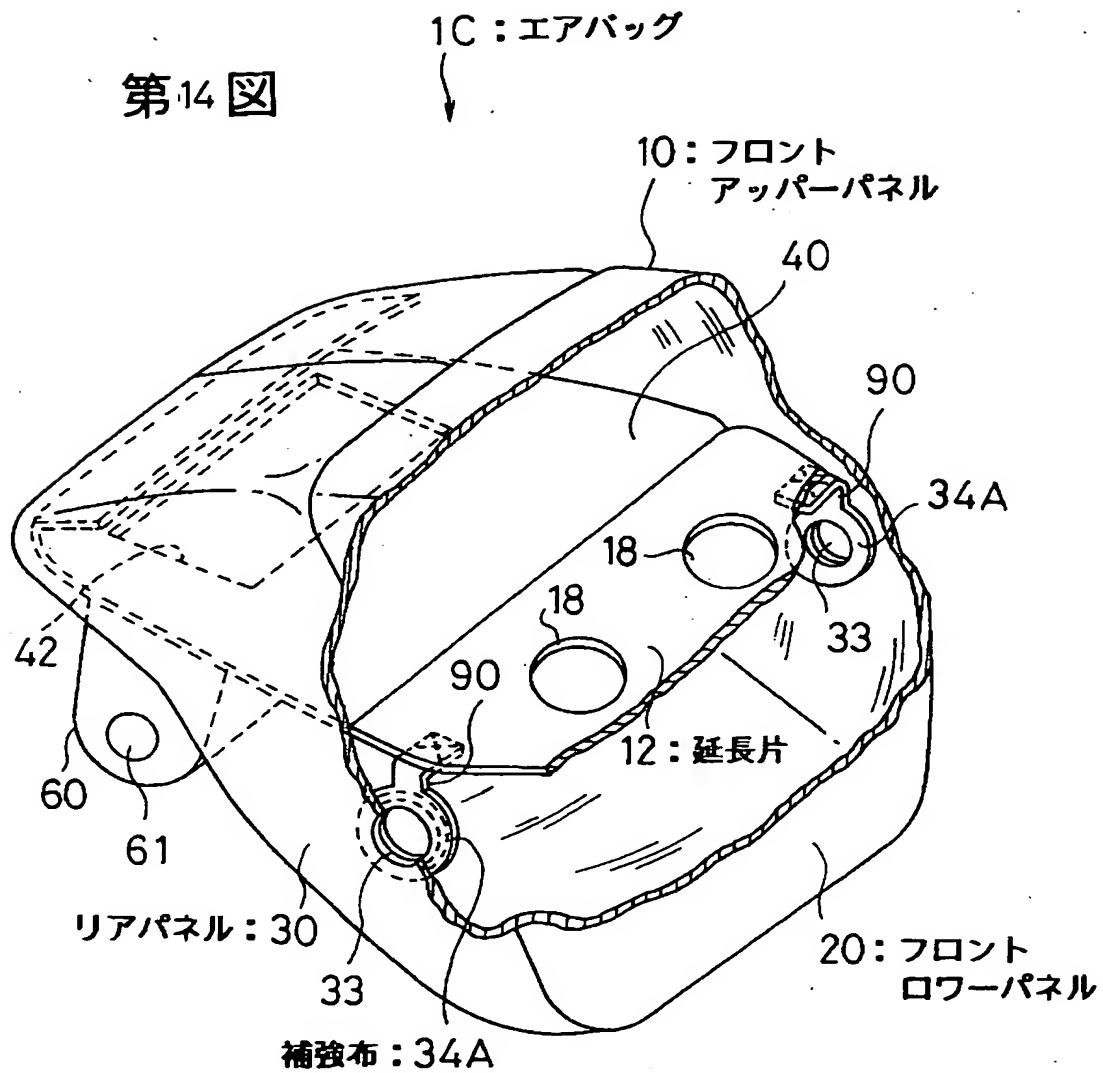
【図12】



【図13】



【図14】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 エアバッグ後部とエアバッグ前面部とを連結する連結片を有するエアバッグにおいて、エアバッグ前面部の外面を平滑なものとすると共に、縫合等の結合が容易なエアバッグを提供する。

【解決手段】 エアバッグ1は、フロントアップーパーパネル10と、フロントローーパーパネル20と、リアパネル30とによって外殻が構成され、内部にミッドパネル40が配置されている。フロントアップーパーパネル10は、本体部11と該本体部11の一辺から延出する延長片12とを有している。ミッドパネル40の下辺40bと延長片12の下辺12cとがエアバッグ1内においてミシン目56によって縫合されている。各辺部の縫合のミシン目46～48, 50～56はいずれもエアバッグ1の内側に配置されている。このため、エアバッグ1の前面部及び両側面はミシン目が露出せず、平滑である。

【選択図】 図1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2 0 0 1 - 2 4 4 0 1 9
受付番号	5 0 1 0 1 1 8 6 5 7 9
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0 0 9 3
作成日	平成 1 3 年 8 月 1 3 日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成13年 8月10日
-------	-------------

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000108591]

1. 変更年月日 1990年 8月 7日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都港区六本木1丁目4番30号
氏 名 タカタ株式会社